

感染症の発生について(情報提供)

【概要】

市内医療機関から腸管出血性大腸菌(O157)感染症発生の報告が当保健所がありました。
これは感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第16条に基づき、感染症予防のため感染症発生動向情報を公表するものです。

病名	腸管出血性大腸菌(O157)感染症		
年齢及び性別	12歳	・	女
職業	中学生		
住所	四日市市		
発病年月日	平成24年	8月	17日
診断年月日	平成24年	8月	22日

【患者発生の経過】

8月17日 腹痛症状あり。
8月18日 腹痛持続改善せず、市内医療機関に受診し、入院治療開始。
8月19日 水様性の下痢(1回/日)あるも腹痛軽減する。
8月22日 8月18日の便検査結果から、腸管出血性大腸菌(O157)感染症と診断。
8月22日現在、患者は入院治療中ですが、快方に向かっています。

病名	腸管出血性大腸菌(O157)感染症		
年齢及び性別	18歳	・	男
職業	学生		
住所	四日市市		
発病年月日	平成24年	8月	17日
診断年月日	平成24年	8月	22日

【患者発生の経過】

8月17日 腹痛症状あり。
8月18日 腹痛持続、軟便が頻回にみられ市内医療機関受診。
8月19日 軟便が水様便になり、症状の改善みられないため、市内医療機関を受診し治療開始。
8月22日 8月19日の便検査結果から、腸管出血性大腸菌(O157)感染症と診断。
8月22日現在、腹痛・下痢軽減し症状改善しています。

【防疫措置】

家族・接触者の健康状況調査及び検便の実施

【四日市市内の腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】

平成24年1月1日～平成24年8月23日現在まで本件含む ()内は三重県内の発生

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
患者	2 (24)	19 (187)	6 (31)	6 (25)
保菌者	2 (15)	17 (164)	9 (19)	2 (10)
計(感染者)	4 (39)	36 (351)	15 (50)	8 (35)

【自分で出来る予防対策】

1 予防の3原則

加熱(菌を殺す)

この菌は熱に弱く、75℃、1分間の加熱で死滅します。
肉の生食は避けてください。特に子どもや高齢者は注意してください。
ひき肉は、十分に加熱をしましょう。
焼肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。
井戸水は、煮沸してから飲んでください。

迅速・冷却(菌を増やさない)

調理した食品はすぐに食べましょう。

清潔(菌をつけない)

手指や調理器具は十分に洗いましょう

- 2 暴飲暴食は避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保ってください。
3 腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けてください。

連絡先

四日市市保健所 保健予防課 (059-352-0594,0595)
担当：白木・村上